

令和 8 年 度

施政方針

刈 谷 市 長

令和8年3月市議会の定例会にあたり、所信の一端とご提案申し上げております議案の大綱についてご説明申し上げ、市民並びに議会の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

本年は、60年ぶりとなる丙午の年であります。丙午については、干支の中で最もエネルギーが生まれる年とも言われており、本市の更なる成長へ向け、市政の舵取りをしてまいりたいと決意を新たにしております。

新年度の9月には、日本では32年ぶり3度目となるアジア競技大会、また、国内では初開催となるアジアパラ競技大会が開催されます。本市では、聖火リレーに始まり、ウェーブスタジアム刈谷でのサッカー、ウィングアリーナ刈谷では車いすラグビーが行われます。アジア・アジアパラ競技大会刈谷市実行委員会や地域の皆様と、そしてアジア各国から観戦に訪れる多くの方々と、この大会を盛り上げてまいりたいと考えております。

また、先週開幕したミラノ・コルティナ冬季オリンピック、来月開幕するワールドベースボールクラシック、そして6月には、FIFAワールドカップ北中米大会も開幕いたします。このような大きな大会が開催されるスポーツイヤーに、次代を担う子どもたちや市民の皆様が、最高峰のプレーを肌で感じ、共に熱狂し、社会を活性化させる、そうしたスポーツが持つ力をまちづくりに融合させ、更なるにぎわいの創出を図ってまいります。

さて、魅力あふれる公園づくり構想を策定し3年が経過いたします。アジア・アジアパラ競技大会が開催される総合運動公園をはじめ洲原公園、岩ヶ池公園、亀城公園、フローラルガーデンよさみの5つの公園が持つそれぞれの特徴をいかし、魅力あふれる公園となるよう整備を進めてまいります。

総合運動公園では、Park-PFIにより、エントランスエリアにカフェや3人制のバスケットボールなどができるアーバンスポーツコートのほか、イベントステージなどを、アジア・アジアパラ競技大会開催までに整備してまいります。

亀城公園では、刈谷城の石垣隅櫓等の整備に着手するとともに、コネクドームを活用したイベントの開催など、公園の魅力を深化させ、人々でにぎわう空間創

りを進めてまいります。

1533年に刈谷城が築城され493年が経過いたします。現在放送されているNHK大河ドラマ「豊臣兄弟！」と同時代に本市の発展の礎が築かれました。石垣や隅櫓の整備により、戦国時代から現在の姿へと発展を遂げた本市の歴史を、市民の皆様を感じていただき、また、亀城公園が持つ歴史的、文化的な価値を次の世代に引き継ぐためにも、魅力ある公園にしてまいりたいと考えております。

昨年も、お米をはじめとした食料品の物価高騰が続き、家計への負担は依然として重いものとなっております。そうした中、10月に日本では女性として初となる高市内閣総理大臣が誕生し、「強い経済」の実現へ、物価高騰対策に最優先で取り組むと所信表明されました。本市におきましては、水道料金に係る基本料金を昨年12月検針分から免除したほか、1月14日からは市内の参加店舗で利用できるデジタルクーポン「K-p o n」を発行するなど、物価高騰対策に、いち早く対応してまいりました。そして、65歳以上の高齢者を対象に1万円分のギフトカードをお送りする、高齢者物価高騰対応生活支援事業のほか、4月から6か月間の水道基本料金上昇分の減免や、給食の食材費上昇分の公費負担、小中学校の教材費等に対する支援を行うなど、全世代に向け物価高への対応をしてまいりたいと考えております。

市民の皆様が、安心して日々を過ごし、地域に愛着を持ち、笑顔があふれる、そうしたまちづくりを進めることで、希望をもって元気に1年を過ごすことができるよう、様々な施策をバランスよく推進してまいります。

それでは、以下、令和8年度の主要施策と予算における基本的な考え方について、ご説明申し上げます。

基本方針の一つ目は、「安心して暮らし続けられる快適なまちづくり」であります。

快適な都市空間と市内外の円滑な移動環境の整備を進めるとともに、災害などに強い基盤整備を行うことにより、生活の質を維持、向上させ、都市と自然が共存した魅力ある住みよいまちづくりを進めてまいります。

本市の玄関口である刈谷駅の周辺は、通勤や通学など日々の生活で利用される交通拠点として、安全性と利便性の高さとともに、市の「顔」として、にぎわいのある、魅力的な空間の整備が求められています。

刈谷駅では、JR東海とともにホーム拡幅や、ホームドアの設置など改良事業を引き続き推進するとともに、南北連絡通路から北側に延伸するウイングデッキの完成に向けて整備を進めるなど、市民の皆様が安心して利用できる移動環境と回遊性の向上を図ってまいります。

また、刈谷駅北口周辺における旧駅舎跡地や工場移転に伴う跡地利用については、本市の更なる発展に向けて、民間事業者との連携を図るとともに、引き続き、刈谷市駅前も含め商業施設やオフィス、住宅などの複合施設を整備する民間再開発事業を支援することで、新たな交流が生まれ、活気にあふれる駅前空間の創出を図ってまいります。

加えて、昨年末に設立された「刈谷駅周辺エリアプラットフォーム」を通じて、地域住民や商店街、周辺企業などと連携し、様々な取組を進めるとともに、クラウドファンディング型ふるさと納税を活用した補助制度により、地域のまちづくり活動の支援にも取り組んでまいります。

魅力ある都市空間の創出に合わせ、住み続けたいと思うまちづくりを進めるためには、災害に強く、安心、安全に生活できる環境整備が必要であります。

市営西境住宅においては、耐震性能の強化等により、安全で快適な住まいを提供するため建替え工事に着手してまいります。

また、道路事業においても、高須線の拡幅に伴う住吉橋の架替え工事に着手するとともに、刈谷市無電柱化推進計画に基づき刈谷北高等学校東側の市道01-36号線をはじめ対象路線の電線類地中化を進めることで、快適な歩行空間の確保及び、防災機能の強化に取り組んでまいります。

こうした安心・安全なまちづくりに加え、自然と共存した魅力ある住みよいまちづくりを推進し、多様化するニーズに応じていくために、各公園の特色をいかした整備を進める必要があります。

本市固有の貴重な歴史を次世代に継承するとともに、歴史をいかしたまちづくりを進めるため、可能な限り史実に忠実に刈谷城を整備することで、地域への誇りと愛着の醸成や観光資源としての魅力向上を図ってまいります。

また、身近な公園として、たまち公園の完成に向けて引き続き整備を進めていくとともに、井ヶ谷町では、新たな公園として整備する井田公園の設計に関するワークショップを開催し、地域の皆様の思いを反映した公園整備を進めることで、魅力ある住みよいまちづくりを進めてまいります。

基本方針の二つ目は、「生涯にわたって学び地域への愛着を育むまちづくり」であります。

学力と豊かな心の育成をめざし、学校や家庭、地域との連携による質の高い教育を進め、生涯にわたって学習やスポーツに取り組める機会を多様な形で提供するとともに、本市の歴史・文化の継承と活用により、地域への誇りと愛着を深め、次代を担う人材を育むまちづくりを進めてまいります。

冒頭申し上げました、アジア・アジアパラ競技大会では、関連イベントや各種の取組を様々な分野の団体と連携し実施することで、機運を醸成し、大会を盛り上げてまいります。

また、大会の開催を契機として、アジア各国を知る学習に取り組むとともに、市内で行われる競技を学校単位で観戦することで、小中学校の児童生徒の異文化、障害への理解促進を図ってまいります。

次代を担う子どもたちが、学校教育を通して楽しく学び、確かな学力を身につけるとともに、豊かな心と健康な身体を育むことができるよう、環境を整備することが必要です。

悩みや不安を抱える児童が、気軽に相談できる環境の充実を図り、心のゆとりを持つことができるよう、各小学校に配置されている心の教室相談員の相談時間を拡充してまいります。また、教員や児童が行っているプールの管理については、清掃や点検業務を委託し、負担の軽減とともに、安全を確保してまいります。

公立小学校における給食費につきましては、県の交付金を活用するとともに、食材費の上昇分を本市が公費負担することで無償化を図ってまいります。また、公立の保育園や幼児園、中学校につきましても、食材費上昇分を公費負担し、保護者の経済的負担の軽減を図りながら、給食の質を確保してまいります。

本市では、加藤与五郎顕彰科学教育振興基金を活用した科学実験教室や与五郎博士の母校同志社大学の協力のもと、加藤与五郎実験教室を開催するなど、子ど

もたちが科学にふれる機会を積極的に設けてきました。

そうした中、朝日中学校が、2025年度ソニー子ども科学教育プログラムの論文募集で、最優秀校に選ばれました。本年10月には、その成果を発表する全国大会が同校で開催されますので、その費用を支援してまいります。

そして、生涯にわたって、誰もが生きがいを持ち、心豊かな生活を送ることができるよう、一人ひとりの興味や目的に応じて、スポーツや文化芸術に親しむことができる環境を提供することや、ふるさとへの誇りや愛着を育んでいける環境をつくることが重要であります。

身近なスポーツ施設を充実させ、市民のスポーツニーズに対応するため、刈谷球場の防球ネットを増設し、安全性の向上を図ります。また、港町グラウンドでは利用環境の向上を目的として、人工芝やナイター照明の新たな整備に向け設計を行い、施設の充実をめざしてまいります。

城町図書館の跡地においては、地域住民や学生が参加したワークショップの結果等を踏まえ、子育て世代や学生、地域住民が集い、歴史やにぎわいを感じられ、交流の場となる、(仮称)ぶんれい交流館の整備に着手してまいります。

また、開館から40年以上経過した美術館においては、文化芸術の発信拠点として、施設等の機能や魅力の向上を図るとともに、地域に親しまれ、多くの人々が集い、交流が生まれる施設として、具体的な検討を進めてまいります。

基本方針の三つ目は、「人と技術でにぎわいを創り未来につながるまちづくり」であります。

人と自然が調和し、環境への負荷が少ない持続可能な社会の形成に配慮するとともに、ものづくりによって培ってきた高い技術と能力の蓄積を有効にいかしつつ、バランスが取れた産業の振興を図り、働き続けることのできるにぎわいのある明るいまちづくりを進めてまいります。

本市の発展を支えてきた自動車関連産業は、自動運転技術の発達や電気自動車の普及など、大きな転換期を迎えています。本市が将来にわたって産業競争力を維持し、持続的に発展していくためには、市内中小企業が多様な主体との連携や交流を促進することで、新たな領域への事業展開や持続的な雇用の創出を図ることが必要です。

市内中小企業への支援の一つとして、今年度からステーションA iに常駐する職員を配置し、市内中小企業とスタートアップ企業との交流機会を提供することで、イノベーション創出の機運醸成を図ってまいりました。新年度においても、引き続きマッチングや協業を後押しすることで、市内中小企業の課題解決や事業成長へとつなげてまいります。

また、次代を担う市内の小学生を対象に、ものづくりへの関心を高めるとともに、勤労観や職業観を醸成し、企業や社会で新しい価値を創造していくことができる人材の育成に取り組んでまいります。

商業の活性化と人材の交流並びに、にぎわいの創出を目的に整備を進めてきましたチャレンジショップ「YOHACO」が、昨年12月にオープンしました。新年度においては、設備や機器を追加し、施設を充実させることに加え、セミナーやイベントを実施することで、創業を希望する人の挑戦を応援するとともに、新たな魅力ある店舗の創出と地域経済の活性化につなげてまいります。

農業従事者の高齢化や後継者不足による担い手の減少とともに、夏の記録的な

暑さや台風などによる風水害の激甚化など、農業を取り巻く環境はますます厳しさを増しています。

農業経営の合理化と生産性の向上を図るため、井ヶ谷町及び西境町における、ほ場の大区画化や用排水施設などの生産基盤の整備を進めてまいります。

また、水稻の有機栽培及び特別栽培の実証実験を実施し、営農の選択肢となり得るかの検証を行うとともに、今年度の実証実験を行ったドローンを活用した有害鳥対策を本格導入し、効率的な農作物の食害防止を図るなど、経営の安定化や合理化に向けた取組を推進してまいります。

持続可能なまちづくりを推進するため、脱炭素社会の実現は重要なテーマの一つです。先人から受け継がれてきた美しいまちを、未来の子どもたちに引き継いでいくためには、市民・事業者・行政の各主体が協働して脱炭素につながる取組を進めることが重要であります。

新年度は、再生可能エネルギーの更なる導入拡大に向けた次世代の太陽電池と注目を集める「ペロブスカイト太陽電池」の実証実験を、ウイングアリーナ刈谷において実施し、その有効性の検証を行ってまいります。

また、家庭から廃棄される食用油を資源回収所や各市民センターなどで回収するとともに、精製されるバイオディーゼル燃料を混合した軽油を、不燃物埋立場で使用するフォークリフトに活用することで、資源循環の取組を推進してまいります。

基本方針の四つ目は、「支え合い誰もが安心して暮らせるまちづくり」であります。

子育て支援及び保健・福祉サービスの維持・向上を図るとともに、災害や感染症、交通事故、犯罪などに対する安全性を高めることにより、みんなで支え合いながら、多様性が尊重され、誰もが住みなれた地域で安心して暮らせるまちづくりを進めてまいります。

子育て世帯の定住促進や出生率の向上を図るためには、子育てに係る保護者の負担軽減や、支援が必要な子ども、家庭へのサポートを充実させるなど、安心して子育てができる環境づくりが必要です。

子育て世帯への訪問支援では、家事支援に加え育児支援を実施するとともに、ヤングケアラーの実態調査を本格的に実施し、支援が必要な家庭の把握に努めてまいります。

また、子どもの将来の選択肢を広げるため、経済的問題を抱える家庭に対し、現在実施している大学等受験料及び模擬試験費用の補助に、高校受験料を加え、進学に向けたチャレンジの後押しをしてまいります。

発達や発育に心配がある子どもやその家庭への支援として、地域の障害児支援の中核を担う児童発達支援センターの整備を進めてまいります。

また、子どもの特性を早期に発見し、子どもと保護者をその特性に合わせた適切な支援につなげ、就学に向けた不安の軽減を図ることを目的に、令和9年度から実施する5歳児健康診査の準備を進め、出産後から就学まで、切れ目のない支援体制を構築してまいります。

生涯を通じて、こころと身体の健康を保ち、元気に生活を送るためには、一人ひとりが自身の健康に関心を持ち、健康維持、増進に励むとともに、予防医療の普及啓発を行い、健康づくりを社会で支えることが重要です。

新年度は、新たに定期接種の対象となったRSウイルス母子免疫ワクチン予防接種を実施し、新生児や乳児のRSウイルス感染症予防に取り組んでまいります。

様々な生活課題を抱える障害のある方や高齢者が、住みなれた地域でいきいきと安心して生活できるよう、支援体制を整えることが重要です。

新年度は、障害のある方や高齢者の外出支援を促進するため、タクシー料金の助成上限額を引き上げてまいります。

また、要支援の認定を受けた方などが、再び元の自立した生活を営むことができるよう、目標を設定し、自宅でできるトレーニングの指導などを行うモデル事業を拡充するとともに、身寄りのない高齢者などの終活に関する相談窓口となる終活あんしんセンターを設置し、将来の不安を軽減し、人生の最後まで安心して生活ができるよう支援をしてまいります。

昨年も多くの自然災害が全国各地で発生しました。本市においても河川水位の上昇により避難所を開設したケースがあり、改めて日頃からの防災の取組の重要性を認識したところであります。

地震対策として、木造住宅の無料耐震診断の対象を、平成12年以前に建築された住宅まで拡大するとともに、ブロック塀の撤去費などの補助金の上限額を増額してまいります。さらに、地震時の電気火災を抑制する感震ブレーカーについて、補助対象となる機器を拡充し、防災意識の高揚につなげてまいります。

また、災害対策本部や避難所での通信環境を確保する対策の一つとして、スターリンクを試験的に導入してまいります。

侵入盗や特殊詐欺をはじめとした犯罪認知件数が増加傾向にある中、自主防犯活動の推進のため、自治会が所有する青色防犯パトロール車の維持管理費を補助対象として拡充し、安心して暮らせるまちづくりを進めてまいります。

一方、犯罪等により被害を受けた方やその家族などに寄り添い、被害の回復や生活再建を支援するため、支援金の支給や日常生活支援などを新たに行ってまいります。

以上の4つの基本方針を推進し、長期化する物価高騰やデジタル技術の急速な進展、多様化するニーズに応じていくためには、時代の変化に対応した、行政のマネジメントも重要となってまいります。

窓口の混雑緩和を図るため、マイナンバーカードを利用して各種証明書の取得ができるキオスク端末を、本庁舎に設置してまいります。また、粗大ごみの戸別収集について、オンラインでの予約及び決済サービスを導入するとともに、公共施設予約案内システムについては、利用登録時のオンライン化やキャッシュレス決済を新たに導入するなど、市民の皆様の利便性を向上するため、引き続きDXを推進してまいります。

また、公共施設の屋外照明機器のLED化を進め、環境負荷の軽減とコストの縮減を図ってまいります。

新年度も以上の施策によりまして、市民の皆様が“元気”に、“笑顔”で、未来へ“希望”が持てるよう、「人が輝く 安心快適な産業文化都市」そして、「日本一安心安全なまち刈谷+にぎわい」の実現をめざしてまいります。